

「未来の担い手も育む 夕陽の仲間たち」



鹿部支会長
(鹿部小学校)
長谷川 和雄

秀峰駒ヶ岳を仰ぎ、洋々とした太平洋を望む恵まれた自然にはぐくまれた鹿部町は、「きらめく海・駒ヶ岳・うるおいの湯郷・ひとの愛」を生かす人づくりを目指している。

本町における小学校は、鹿部小学校一校のみである。本校は学級数一三、児童数三一一、創立一三三年という伝統を持つ学校である。

本校の教育に寄せる保護者をはじめとする町民の方々の期待は、きわめて大きいものがある。また、学校に対する愛着も深く、誇りとなる学校、おらが町の学校として信頼もされている。

海と温泉の町で育つ本校児童は、明朗快活で純真である。町研の重点である挨拶運動の成果から、元気に挨拶のできる子が多い。野球、サッカー、柔道、ラグビー等の少年団活動も盛んで、毎年好成績を残している。

今まで本校に勤務した数多くの夕陽会諸先輩は、一丸となって子供の教育に鋭意努力し、輝かしい成果をあげてきた。その伝統を受け継ぎ、現在の鹿部小学校の子ども達を健やかに育てるために奮闘している夕陽会員を紹介したい。会員が本校の八割を占めるため、個々に詳しく紹介できないのが残念である。教諭の佐々木岩男、

山田泰三、下田豊、北村博、福井眞理子、石田典子、小玉剛、須田明海、野呂智幸、清水美恵子、小林義治、花輪肇、山田博子、高橋結香、阿部伸郎、若山由紀恵。最後に教頭の長谷川和雄。未来に生き、未来を担うたくましい子どもを育成を願って、鋭意健闘する本校の夕陽会員達である。

子ども達にとって学びがいのある学校。保護者・地域から信頼される学校。勤務校は鹿部小学校と教職員が胸をはれる学校であり続けたい。

職員室

「生徒の可能性を伸ばし、学ぶ意欲にみなぎる教育」を目指して



砂原支会長
(砂原中学校)
石原 佑一

駒ヶ岳の裾野、砂原岳の凛々しく荒々しい岩肌を見据えた山裾に、爽やかな海風を浴び、シロハヤブサが飛来する砂崎岬、潮騒が静かに響く珍しい砂浜に立つ砂崎灯台を望む。街の人々のあたたかい心が、素敵な町並みを創出させるフラワールード。そんな、四季折々の景色を楽しませてくれる「彩・風味あつたかさわら」である。

純朴で屈託のない子どもたちと人情味溢れる地域の方々に支えられながら「おらが学校」として教育活動に邁進している。

本校の教育活動の特色として、情報教育において管内研究指定校となり実績を上げ、プレゼンテーションや情報収集に生

徒たちは卓越したものを発揮してくれらるとともに、教職員も校内ランで情報の共有化を図り効率的な校務作業を進めている。また、フラワールードに見られるように地域と一体となり子どもたちと街を愛する人々のあたたかい心が、今年も色とりどりの美しい花を咲かせました。さらに、部活動では地域の少年団と連動し、中学校で更なる努力により素晴らしい戦績をあげてきています。今年の中体連でも、女子バドミントン部が個人戦で全道大会準優勝し、全国大会出場を成し遂げました。

本校会員は十名を数える精鋭揃いであり、和気藹々の中にも切磋琢磨し研鑽に励んでいる。職員構成上年齢は若いですが、志も高く、何に対しても全力投球できる。その中で三年間生活し、学ぶ子どもたちは本心に恵まれている。開校三十周年(創立五十八周年)のこの年、奇しくも砂原町と森町の合併の年でもある。節目として更なる飛躍を期し、地域のよさを生かし、共鳴し高まる学校づくりを目指し取り組んでいきたい。

支会だより

「子供は地域の宝」

南茅部町



南茅部支会長
(大船小学校)
加藤 潔

函館から川汲峠を越えると、眼下に広がる太平洋。南茅部町は、南北に三十数キロメートルの海岸を持つ海の町である。紺碧の海に緑の森、自然に満ちた素晴らしい環境である。「大謀網発祥の地」「昆布の里」として、広く知られている。

六月から始まる養殖・天然昆布漁は、街中が昆布の匂いに染まる程、最も活気を帯びている。真昆布は「白口浜昆布」とも呼ばれ、天皇家献上の良質である。さらに、近年は「遺跡の町」としても脚光を浴びており、重要文化財の「中空土偶」を始め、多くの縄文文化を示す遺物が発掘されている。

学校教育では、「地域に根ざした教育」を目指し、小・中・高と、関係各機関との連携を図り、多様な活動を展開している。町教育研究所による「小学校陸上大会」「なかよし さわやか

DAY 音楽交歓会」生徒指導協議会による「青少年の主張発表会」、教育委員会による各種事業等、大変充実している。

現在、平成十六年十二月の市町村合併に向け、進行中である。形は変わっても、これまで地域と共に培ってきた教育的財産を更に発展させる必要がある。

平成十六年度の南茅部支会は、特別会員である教育委員会・石坂新一教育長他、現職員三十五名である。

昨年度末の五十嵐輝男校長(白尻小)得永宏校長(磨光小)の引退を含め十三名の異動の後、森武(白尻小学校)小原(木直小教頭)東海林(尾札部中教頭)松宮(白尻中教頭)含め十名の新会員を迎えた。

七月十四日には、ご来賓として本部副幹事長・須藤由司様、渡島支部長・川合正芳様をお迎えし、『平成十六年度夕陽会南茅部支会総会・懇親会』が開催され、大いに親睦が深められた。〈役員〉支会長・加藤(大船小長)副支会長・飯田(木直小長)森武(白尻小長)事務局・若原(大船小教頭)

支会だより

五稜支会、近況報告



五稜支会長
(渡島教育局)
竹 鼻 洋 文

今春、須藤社会教育指導班主查が、北海道教育大学附属函館養護学校副校長として、また、平馬指導主事が、函館市教育委員会指導主事として、お二人とも、「とても残念ですが・・・。」と言いつ残され、五稜支会を後にしました。

現在、渡島教育局には、高橋指導主幹と六名の五稜支会の会員がおり、最も会員数の少ない支会ではありますが、十六町村に置かれた各支会の皆様のお力添えをいただき、何とか支会としての機能を保つべく努力をしているところですよ。

一方で、「スモール・イズ・ビューティフル」という言葉があるように、小さな組織は、小さいなりによさがあります。それは、組織の一人一人のものの見方や考え方、人としての生き方などを直接、肌で感じる事ができるということです。

その一端として、我が支会の皆様の様子をご紹介いたします。

高橋指導主幹は、学校訪問で、ほとんど出かけています。そんな中、パソコンがフリーズしても、「いいんだ。また打つから。」と、心が広いです。

竹鼻課長は、網走から帰り、とても喜んでいきます。「離れてみて、その土地のよさがわかる！」と、実感がこもったその言葉が温かいです。

大堂主査も、七飯の自宅に戻りました。それで、車庫で焼き肉をさせていただきました。とても楽しいひとときでした。

沢田指導主事は、娘さんの写真を見て、にこにこしています。仕事の時とは違う顔です。

野橋社会教育主事は、先日、駅伝に出ました。いつも、チャレンジャーです。

小野寺指導主事は、胆振より戻り相変わらず元気です。元気がない姿を見てみたいのです。

永澤は、道研より戻り寒さに負けず自転車通勤しています！今後とも、よろしくお願いたします。(文責・永澤 篤)

新会員だより

「子ども達との学び」



松前支会
(館浜小学校)
柳本 優子

この度ご縁あって松前町に赴任してまいりました。それまでは、檜山管内で上ノ国に七年間、厚沢部町に二年間勤務していました。檜山同様、松前町も自然が豊富で、山々や海岸のキラキラした美しさに心がおちつきます。また、子ども達がみんななつこく、元気でとてもかわいいのです。たまに落ち込むことがあっても朝、子ども達のはつらつとした姿をみると「よし!!」と気合いが入ります。また、何よりありがたいのは、周囲の方々の温かいまなざしです。悩みを聞いてくれたりアドバイスを諸先輩の先生方からいただくことができ、環境に恵まれた私はその期待に応えようというつもりです。

子ども達が学ぶように、私も色々なことを学び、それを生かしていきたいと思っています。

「渡島での

新しいスタート」



松前支会
(松城小学校)
吉田 恵子

初任として胆振管内室蘭市立大沢小学校に四年間、白老町立竹浦小学校に五年間勤務いたしました。その間、多くの教職員のみなさんや子ども達とのふれあいの下、貴重な体験をさせて頂いたことを感謝しております。

この春から松前町立松城小学校でお世話になることになり、早いもので八カ月が経とうとしています。教員生活十年目という節目の時に渡島に戻ることができ、心機一転、新たな気持ちでスタートを切ることができました。

渡島での初めての出会いは、可愛い二十三名の一年生。毎日が台風のような日々ですが、ふと見せる表情や優しい一言で、私をとてとても幸せな気分させてくれる子ども達です。

まだまだ未熟者ですが、子ども達とともに成長していけたらと思います。宜しくお願ひします。

「二十年ぶりの渡島」



松前支会
(松前小学校)
堀内 夏路

私は、千葉県で五年間、根室管内で十四年間勤めました。それぞれの学校での経験は、自分にとって大切な財産となっています。

そして、教員生活二十年目にして、生まれ育った渡島へ戻ってきました。

任地の松前町は、北海道唯一の城下町です。春には桜が咲き乱れ、その美しさに驚きました。なんといつても桜の種類が多く、早咲き桜から遅咲き桜まであるものですから、一ヶ月以上楽しませてもらいました。

松前小学校は小高い山の上にあり、津軽海峡が眼下に広がっています。たまに蛇が出ることもありますが、草木に囲まれた環境が気に入っています。

これまでの経験を生かして、地域の子どもたちのよりよい成長のために努力していく所存です。

「お世話になります」



松前支会
(白神小学校)
田中 孝浩

初任から六年間は網走管内美幌町立美幌小学校、その後六年間は紋別市立清滑小学校に勤務しました。この間、本務である教員の仕事では経験豊かな諸先輩方から多くのことを教えていただきました。また、少年団活動や地域行事への参加を通して、たくさん貴重な経験もさせていただきました。オホーツクの地で出会い、自分を支えて下さった方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。

十二年ぶりに渡島の地に帰ったものの、初めての経験である複式教育の難しさには未だに戸惑ってばかりです。それでも、毎日明るい笑顔を見せてくれる子どもたちや支えて下さる同僚の先生方がいるというのは本当にありがたいことです。

夕陽の皆様にも様々な形でお世話になることと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

「恵まれた環境で」



木古内支会
(木古内中学校)
義本 剛

初任者として釧路市立鳥取中学校で八年間勤務し、この春から木古内町立木古内中学校に勤務することになりました。釧路鳥取中学校ではたくさんの先生方や地域の方々に支えて頂き、初任者として未熟な私をご指導していただきました。この木古内中学校に来てからも、温かく笑顔の絶えない職員室という恵まれた環境の下、地域の方々にもお世話になりながら教育活動に取り組んでいます。八年ぶりに道南に戻ってきたわけですが、欠々に季節というものを感

じることができ、嬉しく思っています。何よりも夏があるという点が釧路とは違うところで、真っ黒に日焼けすることなど今まではありませんでした。釧路もそうでしたが、恵まれた環境で過ごすことができることに感謝し、今まで以上に地域や子ども達のために頑張りたいと思います。

「念願叶って」



上磯支会
(浜分小学校)
田畑 誠

大学を卒業したのが、およそ九年前。様々な紆余曲折を経て遂に念願叶い、三十三歳での新採用となりました。道南でも最大規模の大所帯、上磯町の浜分小学校への配属となり、はや半年が過ぎています。

現在担任している三年生の子たちはかわいいながらも、慣れぬ環境の中の仕事は一つ一つに迷うことが多く、子どもたちへ還元できているのか自問することも多くあります。それでも学年団の先生や諸先輩方、保護者の方々などの協力を仰ぎながらどうにかやっているという毎日です。

日々はなかなか大変ですが、目の前の子どもたちにはこれからも真剣に向き合おうと思っています。挨拶文を書くにあたり、初心を振り返ることができました。良い機会であったと思えます。改めて感謝いたします。

「自分の色を大切に」



上磯支会
(浜分小学校)
伊藤 友美

浜分小学校は児童約九百名、職員約四十名という大きな学校です。ここにいると、少子化という言葉が忘れてしまいます。「十人十色」という言葉がありますが、その言葉の意味を実感する毎日です。児童だけでなく、職員も同様で、誰一人同じ人間はいません。それぞれが自分の色を持っています。浜分小学校でのたくさんの出会いの中で、そんな当たり前のことに改めて気づき、それが私の勇気になりました。「私も私の色を大切にしよう」と。

ここ浜分小学校でたくさんのお出会いに恵まれたことを本当に感謝しています。そしてまた、私を感じた出会いの喜びを子ども達にも伝えていけるように、教師としての技量を高めていきたいと思っています。夕陽会の皆様、今後ともよろしくお願いいたします。

「子どもと一緒に
成長したい」



戸井支会
(戸井西小学校)
藤原友和

檜山管内の江差町で過ごした四年間、私は中学校国語科の教員として野球部のコーチと「国語技術教育」に熱中してきました。

現在は小学校でお世話になり、念願であったサッカー少年団のコーチと四年生の担任として、毎日充実した日々を送らせていただいております。

中学校から小学校に異動して最大の収穫は、「教科を通して子どもを見る」狭い教育観から「子どもから出発して教科を見る」という視点を持てたということです。本校に赴任して、初めて本格的に触れることのできた「特別支援教育」からも学ぶことが多く、子どもと一緒に、これからも成長していきたいと願っております。

故郷の渡島で、自分に何ができるか、どこまでできるか、楽しみです。宜しく願います。

「夕陽会員として」



戸井支会
(日新中学校)
新濱美喜子

檜山管内乙部町立姫川小学校より、戸井町立日新中学校へ赴任してまいりました。

様々な不安を持った先の函館市から檜山への赴任でしたが、参加した檜山支部総会で多くの方から温かい言葉をかけていただきました。夕陽会の存在に感謝するとともに、会員の皆様の絆の強さを実感いたしました。

四月からは渡島支部の仲間入りを見せていただき、八ヶ月が過ぎました。「母なる海のほとり」に息づく町。潮騒が奏でる優しいメロディーにつつまれて、海のほとりに人が生かされる。ゆつたりと流れる永遠の時間を常に温かく見守る町。ハートフル戸井。「素直な生徒たちと熱心な先生方に囲まれて、有意義な日々を送っております。

十二月から函館市となりますが、夕陽の会員として日々の研鑽に努めたいと思います。

「子どもたちと一緒に」



恵山支会
(えさん小学校)
飯岡未咲

臨時採用として恵山へ来て半年が過ぎました。今は、自然環境に恵まれたこの地で、個性豊かな子どもたちと共に「奮闘」の日々を送っています。

初めての教育現場ということですが、学級経営面で悩んだ時もありましたが、子どもたちとの本音の話し合いや、職場の先生方の支えのお陰で今は少しずつ乗り越えてこられた気がします。

まだまだ小さな芽ではあるけれども、一人一人が「自分らしさ」を咲かせようとしている兆しが見え始めたクラスの子どもたちと一緒に、私も学び、成長してゆきたいと思えます。

最後になりましたが、夕陽会の方々には、今後様々な面で世話になることと思います。一日一日を大切に、「日々精進」の心でゆきたいと思っております。温かい御指導をどうぞよろしく願います。

「生徒とともに
成長したい」



恵山支会
(尻岸内中学校)
長村幸浩

四月に初任者として恵山町立尻岸内中学校に着任しました。着任して早八ヶ月が経ちましたが、周りの先生方からのご指導やご協力をいただき、充実した毎日を送っております。

全校生徒が四十九名の小さな学校ですが、小規模校ならではの学校運営や学校行事のあり方など全てのこと初めての経験で勉強することが多い毎日です。今年は学校統合と市町村合併が重なります。これから大変なことが多いと思いますが、貴重な経験なので、精一杯頑張ります。

恵山町の素直で素朴な生徒たちと向き合いながら自分も生徒たちとともに成長していきたいと思えます。

これから様々な場面で夕陽の皆様のお世話になることと思えますが、そのときはどうぞよろしく願います。

「これから頑張ります！」



鹿部支会
(鹿部中学校)
岡川 篤

このたび、鹿部町立鹿部中学校に新採用として着任しました、岡川篤と申します。

現在は、三年生の副担任で教科は全学年の数学、部活はバドミントン部を担当しています。去年、この鹿部中学校に期限付きとして一年間勤務していたので、今年になって大きな変化はないのですが、正採用という事で、その責任の重さを感じて毎日過ごしています。

生徒は人懐っこい生徒が多く、授業以外でも休み時間など、様々な場面で接してきます。以前は色々な生徒と関わりあっていたのが大変と感じることがありましたが、最近では生徒と接する時間は何よりも大切であると思つようになりました。
長い教員生活、これから様々なことがあると思いますが、何事にも負けないで頑張つていきたいと思ひます。

「充実した毎日」



森支会
(森小学校)
鈴木 悠太

三月に大学を卒業して、四月より森小学校でお世話になっていきます。早いもので赴任してから半年以上が経ちましたが、未だにいつぱいいつぱいの日々を過ごしています。

これまでに経験してきた教育実習では、自分の授業のことで考えを考えてきましたが、実際はそれだけではなく、学校の先生は、本当に忙しいんだなあと痛感しています。

時には、自分の無力さに苛立つこともありますが、周りの先生方いろいろとご指導いただき、それが日々の支えとなっています。また、休み時間に子どもたちと思いきり遊ぶこともとても楽しく、今の仕事にやりがいと面白さを感じながら、充実した日々を送ることができています。これから、更にたくさんのごことを学びながら、一生懸命がんばりたいと思ひます。

「初任者として
夕陽の会員として」



八雲支会
(八雲小学校)
飯川 大徹

このたび、新採用として八雲町立八雲小学校に赴任となりました、飯川大徹と申します。八雲町は私が小学校・中学校と過ごした「ふるさと」ということもあり、地元で微力ながらも貢献できる喜びを、日々かみしめております。

四月からの新しい生活。子どもたちの素直な心と元気さを見ていると、「教師になって本当に良かった！」と実感しています。しかし、「担任を持つこと」に對しての責任感やプレッシャーというものも感じ、試行錯誤しながらの毎日というのが本音です。

そのような中で、いつも助けていたのが先輩の先生方です。適切なアドバイスをもらい時には悩みを聞いていただいたりする中で、私の生活が充実していることも実感しています。今後とも宜しくお願ひします。

「ファミリー」



八雲支会
(八雲小学校)
齊藤 みどり

初任から十年目で網走管内の北見市から八雲小学校に赴任しました。毎日あなたたかい職員の方々とかわいい子どもたちに囲まれて、たいへん楽しく幸せに過ごさせて頂いています。北見でもとてもあなたたかくして頂きました。大学まで地元函館で過ごして就職と同時に知人や友人のいない土地で一人暮らしをスタートさせた私にとって、人々のあなたたかさは本当にありがたく宝物で大きな支えでした。北見の前任校には高校、大学のときの先輩がいて、

「職場はみんな家族、ファミリーだから、何でも相談しな！」と言って頂き、いつもみなさんに支えられながら仕事に取り組むことができました。
ここ八雲小も大規模な家族。人と人とのふれ合いの中でやさしさやあなたたかさを身体いつぱいに受けられるファミリーです。

「成長に携われる喜び」



長万部支会
(長万部中学校)
六 車 保 徳

前任地の岩内町から一路函館へ向かう際、日本海の力強い波から噴火湾の穏やかな波を見て心も体もふと一息ついてきた長万部町。この地に赴任してきて早くも半年が過ぎました。赴任当初は、初めての特殊学級の担任ということで大きなプレッシャーを感じました。しかし、今ではそんな不安も忘れてしまうほど学校での生徒たちとのふれあいが楽しく充実したものとなっております。

一つの学習から様々な面に派生して徐々に自立しようとする生徒の姿。それを温かく見守ってくれる環境。この地へ来て周囲への感謝と共に生徒の成長に携われることの喜びを以前よりも一層感じるようになりました。まだまだ未熟者の私ですが、今後ともよろしくお願いいたします。

「目の前の子ども」



五稜支会
(渡島教育局)
永 澤 篤

平成十三年度に教育行政に出て、三年ぶりに渡島に戻って参りました。

これまでの三年間は、教育研究所での勤務でしたので、先生方にお越しいただき、研修講座を通して、教育について共に考えて参りました。

今は、学校訪問でお邪魔し、授業を参観するなどして、目の前の子どもの一歩を一緒に考えることができ、幸せな気持ちになります。

研究協議では、先生方が、一人一人の子どもを本当によく理解し、その子に合った指導に努めている、その熱意が伝わってきます。

わたしも、この中で、今、何ができるのか、がんばらなくてはならないと思うのです。

微力ではありますが、渡島の教育のため、努力して参りますので、よろしくお願いいたします。

「出会いを大切に」



五稜支会
(渡島教育局)
小野寺 幸 恵

平成十三年度から胆振教育局で三年間勤め、この四月から渡島教育局で仕事をさせていただいております。

渡島管内での勤務は教育大附属函館小学校一校の経験なので、渡島の先生方と一緒に勉強させていただく機会は、限られておりました。そんな中でも、私のことを覚えていただいている方から機会ある毎に声を掛けていただけることを、大変嬉しく、心強く思っています。

今、学校教育には様々な課題が投げかけられております。とりわけ、私の担当である生徒指導、心の教育では、積極的かつ多様な指導が求められております。様々な場でお会いする皆様の一歩に込めるべく、情報提供等に努めてまいります。どうぞ、見かけた折は、声を掛けてください。今後とも、よろしくお願いいたします。



新会員です よろしく申し上げます!!



若さで頑張ります!!

終身会員

の声

楽しさを追いかける
人生を



昭和三十一年卒 一類
須藤 三男

原稿を依頼された機会に退職後の生活を懺悔し、残りの人生に弾みをつけることにしました。

民間企業での最初の六年間は、教職生活では得られなかった見識を持つことができた。

何はともあれ、死ぬまで元気に悠々自適の生活を送ることを目標に、無理のない頑張りが必要と考え継続してきた。

健康については、約一時間のウォーキングをベースにしたり、コースに変化をもたせたり、英会話のテープを耳にしたりの多目的な取り組みもしてみた。記憶する力のあまりにも衰えたことを知り、元気の良い女性に追い越されても抜き返すことなく、マイペースで歩くことに慣れた。

楽しみながらの運動としてパークゴルフに誘われるが、肩の持病で出来ないのが残念であ

る。ただ黙々と歩くのが、私の健康維持法である。

古希を迎えて、しつかりはまっつちやったのが写真である。二コン一〇〇を手にして、パソコンは、デスクトップとノートを無線ランにしており、写真作りの道具として離すことは出来ない。現在、「写好」と「写真考房」のフォトサークルに所属しており、写真展の準備で忙しい日々を送っている。

楽しさを追いかける人生こそ加齢者の生き方と信じ、生き続けたい。

.....

馬齢を重ねて



昭和三十一年卒 一類
澤田 克之

今、長寿大国日本に蔓延している不安は「老いてボケたり、寝たきりになることへの不安」、更に誰もが「老いたらポツクリ死にたい」と望んでいると、某新聞に載っていた。

欠かすことのない晩酌、待ちどおしい朝食もうまくて、おかわりを欲して恥ずかしいくらい

糖尿病の薬餌療法で定期的に検診を受けていた私は、合併症もなく風邪も腹痛もないことで、これで一病息災なりと確信して病を甘くみていた。市の嘱託職員に応募した時にも、健康だけが取柄なんですとパスした。

朝寝・朝酒・朝湯に憧れた。遠慮しがちな立ちション位は許される、そう考えた。正月の三が日程度ならせいたくはないというか、我ままな期待といえようか。手助けを必要としない老人ならば、かわいそうだとか、行き届かないとか、世間体が悪いとかという理由で、見かけの世話を焼かず、見放すことなく、見守る心と眼を失うことなく接したいものだ。清く正しく美しいという観点から多少欠けるものがあっても、老人には、若者の常識には劣るとも、老人の良識がたつぶりあるわけで、成就には手の痛くなる程の拍手で結構。

老いて肉体や精神が衰えるのは止めようがない。おしまいで自分の力で生活できる程度に生きたいものだ。

シルバーコーラスの仲間と 合唱指導が生きがい



昭和三十一年卒 二類
熊野 定志

定年退職した翌年、時間を持って余しているとき、森町公民館の成人学級で、新しく設けられた「合唱指導」の講座を私が担当させてもらうことになった。

合唱は、自分でも退職後、仲間を集めて是非やりたいたいと思っていたので、嬉しく自分にとっては、願ったり叶ったりであった。

楽しくをモットーに、皆がよく知っているやさしい曲でジャンルは、唱歌・歌曲・フォーク歌謡曲等々。六年間の講座が終わった後も受講者を中心に結成した、「森町シニア混声合唱団」の指導を引き受け、今日までずっと続いている。

歌の指導の他に、楽曲選びや楽譜の用意、編曲等があり多忙である。しかし、好きな道なので苦だとは思わない。

ピアノは、適当な人がいないのでボケ防止も兼ねて、わたしが弾いている。ほとんど独学で

基礎が出来ていないから今でも時々間違える。だから、毎日二時間位の練習は欠かせない。もう、ずっと続けて習慣になった。

団員は現在三十四名でレパートリーも百曲を越えた。まだまだ課題も多く十分とは言えないが、毎年、町の文化祭に出演している。今年の中田喜直の「夏の思い出」、「小さい秋みつけた」、「雪の降る町を」の三曲を選んだ。夏からは音大出の美人ピアノリストも応援にかけつけた。目下、猛練習中。

退職して十年



昭和三十一年卒 二類
長沼 政春

退職して十年、月日の流れは速いものだと、つくづく感じているこの頃です。退職後三年は

家の改築と天気の良い日は海へ釣りに行く毎日でしたが、元氣なうちは何かやらなければならぬと思うようになり、町内会の役員、町内老人クラブの会長の仕事を引き受け、また、精神障害者福祉施設の指導員として

多忙な日々を送るようになりました。

現在は、三年間勤めた指導員の職を辞して、町内会と老人クラブの仕事が続いています。私の住んでいる町内会は活動

は活発ですが、若い人の活動への関心が薄く、役員の若返りが悩みの種となっています。老人クラブの方は、入会すぐに会長に推され、六年になりまして、今の日常活動の中心になっています。町内の高齢化が進んでいて、加入率が悪く、どうPRし加入を促進するかが課題と考えています。クラブの年

二回の二泊三日の温泉旅行が何より楽しみです。高齢者の身体的な衰えを考え、日常の健康維持に留意し、老後を楽しむか、関係各方面と連携し、学習活動にも力点を置き運営しています。

年々、自身のことも心配になってきています。特に物忘れが多くなっています。間もなく七十歳を迎えるので当然の現象と思うが、家族の迷惑にならないように、日常生活を大切にしていきたいと思えます。

歌唱力の衰えを 防ぐために



昭和三十一年卒 二類
宮下 欽也

平成八年三月末に定年退職するまで、何らかの形で音楽に係わってきたが、その中で未だに続けているものが二つ、新たに加えたものが三つある。二つが合唱指導（成人及び小学校児童合唱団）で、他の二つがカラオケ指導（成人・老人大学）である。

いずれも助言する立場なので、その良さは私の学びの機会にもなっていることである。それぞれが持っている豊かな音楽性に惹かれ、貪欲なまでに吸収する。だから、指導のための諸準備を含め苦にならず楽しい。

最後の一つは、私自身が受講している音楽講座である。声楽家の石丸典子さんが講師の「うたの教室」（道新文化センター神山教室）である。毎月三回、月曜日午後の講座を一年間継続受講している。前職や前歴はできる限り伏せ、初心にかえって学んでいると、新しい感動も生

まれる。講座の内容は、「次世代に歌い継ぎたい童謡、唱歌、日本の抒情歌や世界の愛唱歌、ミュージカルの名曲、クラシック歌曲の歌唱」で幅広い。しかし、無理のないペースで進めてくれるので、あつという間に終わる一時間は充実感がある。

受講者十四名中十二名が女性だが、臆せず、歌唱力の衰えを防ぐために、まだまだ続けていきたいと思ってる。ひよっとすると、私の老化を引き延ばす音楽効果があるのかも知れない。
.....

近況 歩いて思う



昭和三十一年卒 二類
工 藤 茂

退職してから早いもので、一年半が過ぎた。日々生活して一番思うことは、何と言っても、やはり健康のことに尽きる。

先日、散歩がてら大沼の湖畔を歩いた。

当日は、生憎の天気で、今にも雨が降りそうな空模様で、駒ヶ岳は雲にすっかり覆われ、殆ど見えず。湖水は黄土色で、さ

ざなみが立ち、晩秋を告げているようだ。

台風十八号による被害とと思うが、湖畔の道路縁の樹木が、あちこちで根刮ぎ見るも無残な姿で倒れている光景を目にし、改めて自然の威力を感じた。

この台風の時、各地に大きな被害をもたらしたが、我が家でも約二日間停電となり、夜一口ソクの明かりで過ごすことになり戦時中の経験を味わい、電気の有り難さを身に染みて感じた。

二三年前から、運動不足解消にと思い、近くの横津岳に、春から秋にかけて、時折登っている。

今年は、特に異常気象のせいか山頂に辿り着いた時、強風・雨・濃霧の状態で、ゆっくり遠景を眺める余裕が全然なかった。

また、高山植物(ハクサンチドリ・チシマフウロ・ハナイカリ・リンドウ等)も、例年になく弱々しく、笹の間から窮屈そうに顔を覗かせていた。山も地球温暖化の影響を受けているようだ。地球環境を守る大切さ。心していかなければと思う。

想い 三題



昭和三十一年卒 二類
畠 山 慶 子

十二月には古稀を迎える。

丈夫なからだを与えてくれた両親に感謝である。キャリアを生かして、地域に尽くせることに感謝である。イラク等の様子や新潟県中越地震を想えば、今こうして生活していられることに感謝である。

「ゆとり教育」の反省とは。

学習内容を基礎基本にしぼって、授業時数を減らし週五日制にしたのに。総合的学習などがやつと緒に就いたというのに。学力向上のため、全国学力検査の復活や競争力アップですと。

週五日制には、親子がふれあう時間を増やすというねらいもあつたんですね。

嗤っちゃう。泣けちゃう。

「合併と郷土愛」

わが八雲も町村合併で悩んでいる。新しい町名で採める町もある。なぜか。住民にとって、旧町への想い、アイデンティティに深くかわかるからだと思う

が、男女の結婚にも似て難しい問題の一つだ。

地方分権の流れと財政上の理由からすめられている市町村合併は、家族愛・郷土愛・愛国心のように、心の内面にもかかわることで、互いの歴史や文化を尊重することは勿論だが、新しい町の姿と共に財布の先行きをも考えなければならぬ。

前期高齢者、あれこれと想いを巡らし、調べ、考え、走りまわる日々が続く。
.....

あせらず のんびりと



昭和三十一年卒 二類
山 本 セ ツ

退職したら旅行をしようと思春と秋の二回を計画し、平成十二年まで予定通り続けました。

バスに弱いので行き先も全部主人と相談し、雨が降ったら美術館や博物館、そして余裕があったら第二、第三の計画も立てて歩き廻りましたが、骨折のため体調をくずし、その後はストップしてしまいました。

旅行のことを忘れないようにと当時のアルバムには、日記のように書いた文章も今は楽しい話し合いの材料になっています。

一年ごとに健康管理が難しくなり無理とは思っていましたが以前行った東北の温泉へ出かけ旅行の楽しさを思い出させ、少し自信を持ちました。

ここ数年は、どんな集まりにも体調が悪く不参加だった私でしたが、生徒たちの元気な声や手紙、友人たちとの日常のようすを知らせ合う手紙の交換なども忘れかけていた漢字を思い出すよい機会にもなりました。いろいろな集いにも誘ってくださる方々などにも勇気づけられました。

時期はずれに移植をした「もみじ」や「みずき」なども台風で葉が落ちてしまいました。塩害にも負けずに新しい葉が出たり、「みずき」などは、二度咲きをして楽しませてくれました。

植物の生命力に教えられることが多く、私も体力に合わせて参加したり、挑戦してみたいと思っただけで過しております。

夕陽会渡島支部の活動



『夕陽讃歌』 声高らかに斉唱



川合支部長より 支部総会にて



大抽選会 「ラッキーです!!」



力を込めて歌う寮歌



若さ一杯 新会員の挨拶



会話が弾む大懇親会

印刷 / 株島本印刷